

紅秀峰(べにしゅうほう)

登録番号：第2893号

育成者：石塚昭吾他 15名

登録年月日：平成3年11月19日

来歴：「佐藤錦」と「天香錦」の交雑

登録者：山形県(山形県山形市松波
2丁目8番1号)

実生

特性

■栽培特性

樹姿は中間、樹勢は中ぐらいである。枝の発生密度は中程度であり、枝梢の太さは「佐藤錦」と同程度である。葉形は短楕円で葉の大きさは大である。蜜腺の形は腎臓形である。葉の大きさは大で、「佐藤錦」、「ナポレオン」より大きい。

開花期は栽培品種のなかでは最も早く、育成地で佐藤錦より2～4日早い4月下旬である。花の大きさは中で、花芽の着生は多く、結実は良好である。

交配和合性のある品種は「佐藤錦」、「ナポレオン」、「高砂」等であり、不和合性の品種は「香夏錦」である。ただし、開花時期が早いので開花の早い品種が授粉樹として望ましい。

■果実特性

果形は扁円形で、果頂部は平、梗あいの深さは中で、広さは広い。果実の大きさは10g程度と大きく、着果量が比較的多い場合でも果実肥大は良好である。果肉の硬さは硬く樹上での日持ちも良く軟化しにくい。核と果肉の粘離は粘であり、核の大きさは中で、果実の大きさの割には小さい。

果皮色は黄色地に赤く着色し、赤斑は目立たない。色調は「佐藤錦」よりややオレンジ色がかかった赤で、着色は良好である。果肉色は初め乳白色で果肉内や核周囲の着色は見られませんが、熟度が進んでくると果肉色はやや黄色くなり、核の周囲にわずかに紅色素が入る。

糖度は20%以上と極めて高く、酸味は少なく、甘味の濃厚な品種である。

成熟日数は満開後61～65日程度で、山形県における成熟期は6月下旬で、「佐藤錦」の4～5日後から「ナポレオン」の時期まで収穫できる。

特別問題とすべき病害やその他の障害は発生していないが灰星病や、裂果の発生は中程度である。

■栽培上の留意点

着色始めは「佐藤錦」より早いですが、熟期に達していないと苦みが残ることがあるので、完熟してから収穫する。また、樹上での日持ちは良好であるが、収穫が遅れるとショウジョウバエ等の被害が出やすくなるので防除を完全に行う。着色はしやすいが陰光面は着色しにくいので、果実に光が十分に当たるような管理をする。

開花期が早いので、授粉樹を選ぶ場合は開花時期のあった品種を選ぶことが大切である。特に暖地で栽培する場合には注意が必要である。また果実肥大が良好なので雨除けテントをし、裂果の発生を防ぐ必要がある。

■地域適応性

現在は山形県内の栽培のみで、平成3年から県の奨励品種に選定され、平成6年7月で8.4ha栽培されている。

(西村幸一)